

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 7 0 2 0 2 7 9 0		
法人名	株式会社 スリーコモンズ		
事業所名	せせらぎの森		
所在地	札幌市東区東苗穂 7 条 3 丁目 1 番 5 号		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 13 日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202790-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりが強く、月1回のミニ児童会館訪問や札幌小学校5、6年生の授業【心のバリアフリー】【ハローワーク6年生】での来訪、1F保育園の遊戯披露会等を交流を持っている。今年は札幌小学校からリングブルの回収にて交換した車椅子を寄付して頂いた。
職員教育は札幌市の出前講座や札幌消防署の救急救命講習、認知症を支える家族の会の来訪等にて月1回の勉強会を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 11 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【利用者一人ひとりの暮らしを詳細に伝えるせせらぎ通信】
利用者毎に作成の「せせらぎ通信」は、ホームの暮らしを伝える多数の写真と担当職員のコメントを載せており、家族から利用者の様子が分かると喜ばれ、感謝されています。
【子供たちとの盛んな交流】
同ビル1階にある保育園児のお遊戯披露や児童館からの訪問、小学生の学習訪問等と子供たちとの交流が盛んに行われ、利用者も子供たちの訪問を喜び、楽しみにしています。
【教育訓練を受けた職員による高質のケアサービス】
教育訓練重視の方針のもとで職員は、法人基本理念及びユニット理念を理解し、個人別目標を設定し、ケアに対する意識向上と高質のケアサービスに反映させています。
【災害に対して安心感のある建物構造と避難訓練】
ホームは堅牢なビル内にあり、防災シャッターの完備、定期避難訓練以外に毎月実施の夜間想定避難訓練の実施や各種備蓄品の準備など災害に対しての安心感があります。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者本意の理念に基づき、管理者と全職員が【その人が、その人らしく生活出来る】ようサービスを提供している。また、事業所理念とユニット理念を月1回のカンファレンスにて唱和し、共有を図っている。	法人基本理念とユニット理念を申し送り時に唱和して理解と確認に努めています。さらに、理念をベースとした職員の個人別年間目標設定をし、理念と併せて利用者へのケアサービスに反映させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回の外出行事やミニ児童会館の来訪、札幌小学校の5年生が授業の一環として当ホームへ訪れたりと交流を図っている。また個別対応として隣のセブンイレブンへ週に1回、入居者様と買い物に出掛けている。	ホーム所在ビル1階の保育園児によるお遊戯披露や児童会館からの訪問、小学生の体験学習など地域の子供たちとの交流が盛んです。また、ホームは、商店街に位置しており、近隣店舗での買い物など地域との交流にも努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、地域包括センター職員やご家族様代表の悩み等を討議している。また札幌小学校の5年生が【心のバリアフリー】という授業にて年に1度来訪している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催をし、利用者様の状況や事業所の取り組み、事故・ひやりはっとの内容等を報告している。出席された構成員のメンバーから意見をお伺いし、サービスの向上に努めている。また、今年度からスタッフも会議に参加しスタッフの質の向上にも努めている。	運営推進会議は、ホーム関係者以外に町内会会長、保育園園長、民生委員、児童会館館長など多彩なメンバーで2ヵ月毎に開催しています。会議では、報告事項や勉強会、ホーム運営に関する意見交換を行って利用者へのサービスに反映させています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の介護保険課、保健所職員や消防署職員を当ホームへお招きし、月に1回勉強会を開催している。また、必要な手続き等は担当窓口へ必ず出向いている。	ホームの内部勉強会で市の出前講座を開催し、行政関係者を講師として招聘しています。また、報告書提出などで担当窓口を訪れて相談や情報交換を行うなどホームと行政との協力関係強化に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての入居者様に対して見守りを基本とし、全職員にて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、リスクマネジメント委員会にて既存の身体拘束マニュアルを再度見直し、現在新たなマニュアルを作成中である。その他に各ユニットにスピーチロックに対しての注意ポスターを貼っている。	職員は、身体拘束をしないケアを外部研修受講や内部勉強会、業務を通して理解し、実践しています。職員によるリスクマネジメント委員会では、多数の関連マニュアルを分かりやすく整備中です。日中の玄関やユニット入り口の施錠は無く、センサーで出入りが分かるようになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会があり、虐待防止に対して話し合いをし、全職員へ伝達をしている。また、既存の虐待防止マニュアルを再度見直し、現在新たなマニュアルを作成中である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から講師をお招きし、月に1回の勉強会にて職員へ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご本人様とご家族様へ細かな説明を行っている。疑問や不安等があった場合には理解し安心して頂けるまで、詳しく説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置したり、見やすい位置に苦情相談窓口の案内を掲示している。また、ご家族様が来訪された際に意見や要望をお聞きし、サービスに反映させている。	利用者毎にホームにおける暮らしの様子を伝える多数の写真と担当職員のコメントを載せた「せせらぎ通信」を送付して家族から喜ばれ、感謝されています。家族からの要望等は内容に応じて内部の話し合いや経過記録に記入して利用者へのサービスに活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月のカンファレンスにて意見交換や情報共有を行っている。また、3ヶ月に1回、個人面談を実施しており、職員の想いや考え等を聞いている。	管理者は、日常の業務や法人役員も参加する会議の中で職員からの意見や要望を聞いています。3ヵ月毎に行う個別面談においても職員との話し合う機会があり、要望や意見等をホーム運営に反映させています。	職員のケアに対する高い意識が利用者への丁寧なサービスに反映されていますが、今後もこの質的レベルを維持し、さらにレベルアップを目指すよう職員と話し合う機会を継続する事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年始に各職員が1年間の個人目標を設定し、3ヶ月おきに自己評価をして、個人面談を行っている。面談の際は常務、管理者が出席をし職員の悩みや改善点のアドバイス等を伝え、職員が気持ち良く働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	札幌市の出前講座や認知症を支える家族の会、消防署等を活用し、月に1回勉強会を行っている。また、外部研修の案内を職員へ公表し研修を受けられる環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者会議や外部研修等を通じて、同業者との交流を持ち、サービスの質の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始される前に、ご本人様の不安や要望をお聞きし、安心できる関係作りを行っている。また、ご本人様から得た情報は毎朝の申し送りやカンファレンス等でスタッフ全員が把握できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始される前に、ご家族様の不安や要望の確認を行い、安心して理解して頂ける様に説明をしている。また、サービスを開始してからも面会時や電話等にて、お話しをお聞きし、ご家族様との関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様からの情報にて、その入居者様に合ったサービスを提供していける様、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフからの声かけにて、牛乳パック切りや新聞たたみ等の作業を一緒に行っている。笑う時は一緒に楽しく笑い、悲しい時は一緒に悲しむ。感情の共有を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度のせせらぎ通信や電話、面会時に近況報告をご家族様へ行っている。必要な時にはご家族様にも協力をして頂くケアに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係の継続が行える様、体制を整えてはいるが重度化にて馴染みの場所には行けず、面会も来られていない。入居歴が長い入居者様同士は馴染みの関係となり、お互いの居室を行き来し、歌や談話を楽しめる様にしている。	利用者の高齢化と要介護度の上昇により過去の馴染みの関係継続が困難になっていますが、利用者の望む内容に応じて家族への連絡支援や職員が付き添う外出支援をしています。ホームの2ユニットは、ワンフロアでつながっているため両者間の交流もあり、相互に馴染みの関係も出来ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う入居者様同士は、近くの席にて談話や歌を楽しんで過ごされている。ご自身で移動が出来ない入居者様に対しては毎日の体操時にスタッフが移動介助をし、体操や歌を一緒に楽しめる様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今現在、利用を終了したご家族様からの相談等はないが、要望等があれば適切な情報提供を行える体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に希望や意向をお聞きしながら、実践出来る事は実施しており、困難な場合はご家族様へ相談をしている。利用者本意に努めている。	職員は、利用者のケアプランなどの記録情報を参考にして利用者の思いを感じ取るように努めています。それでもなお思いや意向の把握が困難な時は、出来るだけ利用者が嫌がることは避けるようにしてケアに努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様、関係機関より情報をお聞きし、今までの生活リズムや馴染みの事柄等を把握し、その人らしい生活が出来る様ケアに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の血圧や体温測定、体調の変化等を生活記録へ記入し、現状をスタッフ間で把握している。また、朝の申し送り時にも話し合いを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当にて月に1回のモニタリングを行っている。また、居室担当と他職員が意見交換をしたり、月に1回のカンファレンスにて話し合いを行っている。その他にご家族様からのニーズや要望、主治医や訪問歯科医、施術師からの意見等も含めて、介護計画を作成している。	利用者の担当職員が毎月モニタリングを実施し、カンファレンスで検討しています。プランの定期見直しは3ヵ月及び6ヵ月毎ですが、緊急時には、家族や主治医とも相談して、利用者の状態に即したプランを作成し、口頭や会議等を通して全職員で共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録への記入や職員間で気付いた事の話し合い等にて、定期的にケアプラン内容を見直し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様1人1人のニーズに合った支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所の出前にてお食事を楽しんだり、隣のセブンイレブンへ買い物に出掛けたりしている。月に1度、ミニ児童会館の子供達が来訪し外部とも顔馴染みの交流を持てている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームのかかりつけ医は2週に1回、訪問診療を行っている。元々のかかりつけ医がある場合には、その医師が来訪している。緊急時にも連絡をすると来訪して下さる。	協力医療機関による訪問診療は内科系が隔週、歯科が毎週行われ、かかりつけ医も必要に応じて往診が行われています。他の医療機関受診は、緊急性の場合や家族付き添いが不可の場合は職員が同行支援をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師が週1回訪問看護をして下さっている。入居者様の情報を伝え、処置を行ったり、主治医への情報を伝達してくれている。情報の提供や相談を定期的に行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェイスシートや血圧推移表等を提供し、細かな情報も伝えている。入院中はご家族様から情報をお聞きしたり、入院先へ電話をし入居者様の状態把握に努めている。退院時には看護サマリー等を頂き、出来る限り今まで通りの生活が送れる様になっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時やせせらぎ通信等にて細かな情報をお伝えしている。また今後考えられる事は、その都度ご家族様へ細かく説明をし、必要であれば主治医とご家族様、当ホームにてサービス担当者会議を開催している。	入居時に重度化の指針を家族に説明して同意書を頂いています。終末期に関しては、毎年家族の意向を確認し、利用者の状態に応じて看取り支援の同意書も頂いています。過去に看取り事例もあり、職員もホームの方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に最低でも1回は札幌消防署の直接指導にて全スタッフが救命救急の講習を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、夜間を想定した避難訓練を行っている。シフト調整にて全職員が必ず1回は行う様にしている。また、年2回は建物全体の避難訓練を札幌消防署協力の下、行っている。地域との協力体制も整っている。	消防署の指導を受けながらビル内事業所と合同で年2回の定期避難訓練を実施し、ホーム独自に夜間想定避難訓練も毎月実施しています。救命救急訓練は全職員が受講済みで災害時の備蓄品類も準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リスクマネジメント委員会にて発言に関する注意のポスターを掲示している。また、ユニット目標にて接遇に対する取り組みを実施している。	言葉かけ時の禁句を職員のスタッフルームに掲示しています。管理者も利用者の人格や誇りや損ねないよう配慮したケアサービスのあり方を職員に話しており、職員はこれらを理解し、実践しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい服を選んで頂いたり、飲み物は何が良いか等、入居者様が自己決定出来る様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のお話や訴えを傾聴し、可能な限り希望に添える様、支援している。時間の調整が必要な時にはスタッフ同士で話し合いをし、調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望をお聞きしながら、季節に合った洋服や理美容、化粧等、身だしなみやおしゃれが出来る様、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の旬の食材を取り入れ、四季を感じて頂ける様に工夫をしている。また、盛り付けや食器拭き等を入居者様同士で談話をされながら行っている。	季節行事の特別食も配慮した献立を担当職員が作成し、栄養士の職員がカロリーなど詳細なデータを作成して安心安全な食事を提供しています。利用者の中には簡単な準備や片付けを手伝い、職員と一緒に食事を取っています。外食の機会もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取はキッチン係がカロリー表を作成し、入居者様の状態を考えながら各職員がメニューを作成している。水分確保に関しては1～1.5ℓを目標に声かけや提供をしている。必要な入居者様にはペースト食やトロミ剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず入居者様の居室にて口腔ケアを行っている。口腔内に異常が見られた際は週1回の訪問歯科へ相談をしている。治療を受けられる体制が整っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを訴えられた際にはその都度誘導を行い、生活記録を確認しながら時間が空いている入居者様には声かけをしている。重度化にてオムツを使用されている方が多く、定期的にパット交換を行っている。	利用者の生活記録から利用者一人ひとりの排泄状況を確認し、利用者の様子や時間間隔を勘案しながら声かけ誘導でトイレ排泄を支援しています。おむつや下着類も定期的に交換して不快感を与えないよう留意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、主食に食物繊維が多いビタバレーを使用している。出来る限り自然排便を心掛けているが、必要な時には主治医と密に連携を取りながら排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週1～2回は必ず入浴出来る様にしている。入浴の拒否が見られた際は時間をずらしたり、日にちを変えて必ず入浴して頂いている。ターミナルケアの入居者様は週1～2回、全身清拭を居室にて行っている。	利用者毎に入浴曜日や時間帯を特定せず、利用者の様子を見ながら週2回の入浴を基本として実施しています。利用者が入浴を嫌がる場合も無理をせず、日時の変更等で身体の清潔維持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯にホールにて傾眠されている入居者様には休息の声かけをしている。ご本人様の意思を尊重し臥床されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はスタッフが行っている。服薬方法等はスタッフルーム内の見え易い位置に処置板を設置し無駄な事故が起こらない様にしている。嚥下状態が低下している入居者様に対しては薬を粉碎し蜂蜜に混ぜ、提供をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ、お茶詰め等、自然と役割が出来ている。アイスクリームを週に1回スタッフと買いに行ったり等、個別対応も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化にて外出出来る入居者様は限られている。外出が困難な入居者様は隣ユニットや事務所へ散歩をし、窓から外の景色にて四季を感じて頂いている。その他には月2回の外出行事にて四季を肌で感じて頂き、外食を楽しまれている。	高齢化と要介護度の上昇から散歩などの外出は困難な利用者が多くなっていますが、ホーム周辺散歩や買い物に出かけています。また、車両を利用して月2回の外出行事があり、紅葉見学や農園訪問と自然を感じる機会も持つようにしており、外食も楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて金銭管理を行っている。ご家族様には契約時に説明をしている。入居者様から購入の希望があった際にはスタッフが代行し購入をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、手紙を希望される入居者様はいないが希望があった際には行える体制は整えている。電話の訴えがあった時にはホール内の電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じて頂ける様、季節や行事毎にホール内の壁に大きな装飾を行っている。また、外出行事の写真やせせらぎ写真館にて日常の写真を掲示している。	ホームは、旧商業ビルの建物ですが、暮らしやすいようにバリアフリーなどの改造がなされ、共有空間全体の清掃、温湿度なども適正に維持されています。また、見通しの悪い箇所は鏡の設置などで見通しがきくよう工夫がなされています。居間兼食堂には季節の飾りや行事の写真が飾られて親しみのある空間の中で利用者はゆったりりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在、重度化が進んでおり、1人になりたい等の訴えは聞かれていないが気分転換にホール内のソファにて新聞やテレビを見て過ごされる方もいる。気の合った入居者様同士で談話や歌を唄う事が出来る様、車椅子での移動を考えた、テーブルの幅や距離等を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも不自由することなく居室内を移動出来る様、ご本人様と相談をしながら家具等の配置を行っている。入居者様がよく使用される物は、すぐわかる位置に置く等、どこに何があるか把握出来る様に工夫している。	十分な広さと明るさがある居室には、クローゼットと洗面台が設置され温湿度計もあります。利用者の状態によっては室内を移動し易くするポールを室内に設置しています。利用者は、馴染みの物品や家具などを自由に持ち込み、写真や装飾品を飾り、居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行をされている入居者様は少ないが、歩行される際には手摺を使って頂くよう声かけを行い、転倒防止に努めている。またご自身の行きたい所へ1人で行ける様、トイレ等にわかりやすい案内板を掲示している。		